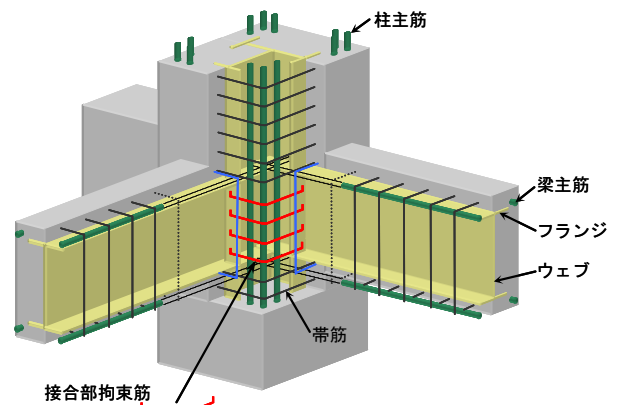


<p><b>【技術の名称】</b>                  A-SH 工法                  -鉄骨ウェブを貫通しない接合部拘束筋による SRC 造柱梁接合部の配筋工法-</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第 05-10 号                  性能証明発効日：2005 年 11 月 1 日</p> <p><b>【取得者】</b>                  株式会社浅沼組</p>
--	---

**【技術の概要】**

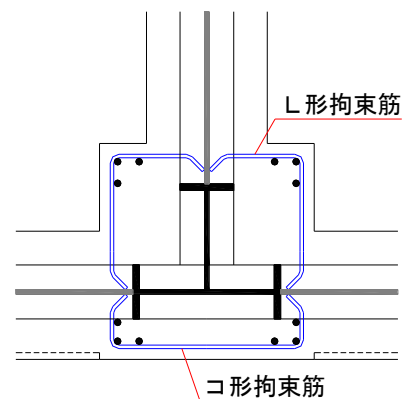
本技術は、SRC 造柱梁接合部において梁鉄骨ウェブに貫通孔を設けて配置する従来の閉鎖型帯筋の代わりに、先端を 45° に折り曲げた L 形、コ形などに加工した鉄筋を組合せた補強筋（以下、接合部拘束筋と総称する）を SRC 造柱梁接合部に配筋する工法である。本工法では、直交方向の SRC 造梁が接続する柱梁接合部において、梁鉄骨のフランジとウェブに囲まれた部分に、接合部拘束筋の先端部を規定以上の長さのみ込ませることにしている。本工法による SRC 造柱梁接合部のせん断終局耐力の評価においては、接合部拘束筋のせん断耐力負担分を無視することになっている。



工法概念図

**【技術開発の趣旨】**

SRC 造柱梁接合部内の帯筋は、従来、内蔵鉄骨梁ウェブの貫通孔に通した L 形折り曲げ鉄筋相互を現場溶接で閉鎖型に接合することが多い。この工法によると、現場での施工が繁雑になり、溶接の品質管理が難しい。本工法は、これらの問題を解消することを意図して開発されている。



柱梁接合部断面図

**【性能証明の内容】**

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者提案の A-SH 工法設計・施工要項に従って接合部拘束筋を配置した SRC 造柱梁接合部は、同設計・施工要項で定める長期許容せん断力、短期許容せん断力および終局せん断耐力を有すると判断される。

**【本技術の問合せ先】**

株式会社浅沼組 担当者：中澤 敏樹  
 〒 569-0034 大阪府高槻市大塚町 3-24-1

E-mail : nakasawa-toshiki@asanuma.co.jp  
 TEL : 072-661-1620 FAX : 072-661-1730